潮騒
第40号
平成27年
8月1日

公益財団法人 日本殉職船員顕彰会
〒102-0083 東京都千代田区麹町四-九
海事センタービル
電話 〇三-三二三四-〇六六二
FAX 〇三-三二三四-〇六八二

天皇皇后両陛下 戦没船員の碑にご供花

第45回戦没・殉職船員追悼式

6月10日、初夏の強い日差しの中、神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」で、第45回戦没・殉職船員追悼式が行われた。

本年は終戦から70年、45回目の記念式典として、戦没・殉職船員の御霊の鎮魂とご遺族の長年の労苦に応えるため、天皇皇后両陛下のご臨席を賜った。

式典には全国各地から、ご遺族、船員OB、立法および行政関係者、海事関係者等約650人が参列した。

宮原耕治会長のご先導で、ご供花に向かわれる、天皇皇后両陛下

ご供花され、深々と黙礼される天皇皇后両陛下

式辞を捧げる、宮原会長

◎式辞　宮原耕治会長

本日ここに、第45回戦没・殉職船員追悼式を執り行うにあたり、天皇皇后両陛下の行幸啓を仰ぎ、全国各地からご遺族をはじめ関係者多数のご参列を賜りましたことに、心より感謝申し上げます。

本年もまた、この碑に殉職船員3人の御霊を奉安いたしました。これにより先の大戦で犠牲となった戦没船員　6万609人と海難などにより殉職された船員2千967人の尊い御霊が、安らかに眠っておられます。

昭和46年、この地に戦没船員の碑を建立し、当時皇太子同妃殿下であられた両陛下のご臨席を賜り、第1回の追悼式を降りしきる雨の中、執り行いましてから、45回の記念すべき追悼式となります。

終戦から70年、この間私たちは、先の大戦で尊い犠牲となった舟人（ふなびと）の、御霊の鎮魂と海洋永遠の平和を祈って参りました。

また、戦後の廃墟の中で、幾多の困難を克服し、海洋国家日本として、平和と繁栄を享受できているのは、志半ばで海に散った戦没船員と、わが国の復興を支えた、海運・水産業で、不幸にしてその職に殉じられた船員の尊い犠牲のうえにあることを決して忘れてはなりません。

ここにあらためて、深く哀悼の誠を捧げるとともに、かけがえのない肉親を失い、言い知れぬ苦難の日々を送ってこられた、ご遺族の方々の労苦と心情に思いをいたし、心から敬意を表するものであります。

私たちは、戦争の悲惨さを後世に伝えるとともに、戦没・殉職船員の御霊の追悼と顕彰、海洋国家日本の永久（とこしえ）の平和と安全を祈念していくことを、ここにお誓いいたします。

安らかにねむれ　わが友よ
波静かなれ　とこしえに

この碑に刻まれた言葉を、参列者の皆様とともに6万3千余の御霊に捧げ、本会を代表しての式辞といたします。

海洋永久の平和を
第45回戦没・殉職船員追悼式

観音崎公園

第45回戦没・殉職船員追悼式は、夏日を思わせる強い日差しの中で行われた。

式典に先立ち、海上自衛隊横須賀音楽隊による「真白き富士の嶺」「椰子の実」「千の風になって」の曲が、おごそかに演奏された。

11時56分、天皇皇后両陛下が「戦没船員の碑」の広場にお着きになられた。当会の宮原耕治会長が両陛下をご先導され、本田勝国土交通事務次官、吉田雄人横須賀市長、道家康之助戦没船員遺族代表、朝倉次郎日本船主協会会長、上野孝日本内航海運組合総連合会会長、森田保己全日本海員組合組合長がお出迎えした。

式典は、正午に開式。国家斉唱に続いて、戦没・殉職船員の御霊の鎮魂と海洋永久の平和を祈り、黙とうを捧げた。

宮原会長の「式辞」に続き、「内閣総理大臣追悼の辞」を本田勝国土交通事務次官が代読、「国土交通大臣追悼の辞」を森重俊也国土交通省海事局長が代読した。

宮原会長のご先導により、天皇皇后両陛下が、「安らかにねむれ　わが友よ　波静かなれとこしえに」と刻まれた碑文石に、白菊の花束をご供花され、深々と黙礼を捧げられた。

天皇皇后両陛下はご退場の折に、遺影を手にしたご遺族に「どなたですか」とお声をかけられ、「父です」と応えると「大変でしたね」と労いのお言葉をかけられた。

天皇皇后両陛下がご退場された後、海上自衛隊横須賀音楽隊による、海に殉じた人々へのレクイエム「君は帰る母なる海へ」が演奏される中、宮原会長、ご遺族代表の道家康之助さん、小林美智子さんの献花に続き、各界代表献花、参列者の献花が行われた。その後、船舶が行き交う東京湾口を望む式場で、観世一門による能楽「海霊」が奉納された。

式典終了後、参列者は恒例の懇親会が行われる観音崎京急ホテルへ送迎バスで移動した。

◎内閣総理大臣追悼の辞

本田勝国土交通事務次官代読

本日ここに、天皇皇后両陛下の御臨席を仰ぎ、第45回追悼式が挙行されるに当たり、戦没・殉職船員の方々の御霊に対し、謹んで追悼の誠を捧げます。

先の大戦においては、６万人余りの船員の方々が、祖国を思い、愛する家族の幸せを祈りながら、その尊い命を落とされました。戦後も、海難事故や労働災害により２千９００人を超える船員の方々がその職に殉じられています。また、４年前の東日本大震災においては、海と共に生きる多くの方々が犠牲となりました。

今日、我が国が、世界に冠たる海洋国家として享受する平和と繁栄は、戦没・殉職船員の方々をはじめとする多くの尊い犠牲の上にあることを、私たちは決して忘れません。

戦後70年の節目となる本年、祖国の未来を信じて蒼海深く散った船員の方々の御霊の御前で、恒久の平和と海上交通の安全への誓いを新たにするものであります。また、被災地の復興を更に加速して進めることを、ここに改めてお誓いいたします。

ご遺族の皆様の深い悲しみに思いを致すとともに、戦没・殉職船員の方々の安らかな眠りを心からお祈りします。

国家斉唱に続いて、戦没・殉職船員の鎮魂と永久の平和を祈り、黙とうを捧げる

◎国土交通大臣追悼の辞

森重俊也国土交通省海事局長代読

本日ここに、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、御遺族並びに関係各界代表者のご列席を得て、第45回戦没・殉職船員追悼式が執り行われるに当たり、謹んで6万3千余柱の御霊に追悼の辞を捧げます。

皆様方は、ありし日、我が国の国民生活や経済を支える上で不可欠な役割を担う海運業、水産業に奉職され、その不断の御労苦により、海洋国家である我が国の発展に多大なる貢献をされてこられました。

しかしながら、不幸にして、先の大戦の戦禍に見舞われ、あるいは、海難や労働災害に遭われ、その職務に殉じられました。

海に散っていかれた皆様方、そして御遺族の方々の深い悲しみに思いを致すとき、ただ悲痛の思いが胸にこみ上げてまいるばかりです。

先の大戦の終結から70年という月日が経とうとしています。これからも戦没・殉職船員の皆様方の尊い犠牲を深く胸に刻み込み、末永い平和と海上交通の安全の確保に、全身全霊を傾けることを、ここに、改めてお誓い致します。

最後に、謹みまして、皆様方の御霊の永久な安らぎを心よりお祈りするとともに、ご遺族の皆様のご多幸を祈念し、追悼の言葉といたします。

道家康之助さんと小林美智子さん

本田さん

左から澁谷さん、衛藤さん、髙木さん

左から朝倉さん、上野さん、白須さん

左から森田さん、酒井さん

左から小内さん、板橋さん、吉田さん

左から大久保さん、佐藤さん、井上さん、武居さん

左から森重さん、小寺さん、小幡さん、竹井さん、竹内さん

◎来賓・各界代表献花者（敬称略）

道家康之助（戦没船員遺族代表）
小林美智子（戦没船員遺族代表）
本田　勝（国土交通事務次官）
衛藤征士郎（海事振興連盟会長衆議院議員）
髙木　義明（海事振興連盟副会長衆議院議員）
漆原　良夫（海事振興連盟副会長衆議院議員名代澁谷朗秘書）
朝倉　次郎（日本船主協会会長）
上野　孝（日本内航海運組合総連合会会長）
白須　敏朗（大日本水産会会長）
森田　保己（全日本海員組合組合長）
酒井智代子（全国海友婦人会会長）
吉田　雄人（横須賀市長）
板橋　衛（横須賀市議会議長）
小内　薫（神奈川県横須賀土木事務所長）
武居　智久（海上自衛隊海上幕僚長　海将）
井上　力（海上自衛隊横須賀地方総監　海将）
佐藤　雄二（海上保安庁長官）
大久保安広（第三管区海上保安本部長）
森重　俊也（国土交通省海事局長）
小寺　俊秋（国土交通省海難審判所長）
小幡　政人（日本海事センター会長）
竹井　義晴（航海訓練所理事長）
竹内　俊郎（東京海洋大学長）

戦没・殉職船員の御霊に献杯

追悼式を終えて、観音崎京急ホテルで、恒例の懇親会を開催した。

終戦から70年、45回目の記念すべき式典であり、例年より1時間遅い開始にもかかわらず、追悼式に参列された遺族の方々をはじめ関係者約450人が参加し、テーブルを囲んで、和やかな歓談のひと時を過ごした。

懇親会では、宮原会長が「終戦70年、45回目の節目の追悼式であり、天皇皇后両陛下の行幸啓を賜りました。両陛下には、この追悼式に何度かおはこびいただいてますが、お帰りの際に、ご臨席の御礼を申し上げましたところ、天皇陛下は、「私は昭和46年の第1回の事も良く覚えております。参列者の方もだんだんご高齢の方が増えているので、これをしっかり続けてください」と、おっしゃいましたので、私どもはしっかり受け止めて、この追悼式、慰霊を今後も続けて参りますとお応えしました。」との、あいさつに続いて、来賓を代表して海事振興連盟副会長の髙木義明衆議院議員は「天皇皇后両陛下のご臨席を仰ぎ、戦没船員そして殉職船員の慰霊を行いました。私も昭和20年の戦後生まれですが、あの経験から70年経過しました。今日の平和と繁栄は尊い犠牲の上にあり、戦争の悲惨さを思い出しながら、私たちはわが国の未来に向けて、平和で安全な海をつくって行かなければならないと思っています。あらためて海運、水産に働く方々に、敬意を表するとともに、今、東京湾を背にしているが、船の入船、出船、これこそが日本経済の大きな力でございます。」とあいさつされた。

続いて、献杯に立った森重俊也国土交通省海事局長は「本日は天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、また、海の青、空の青が輝く中で、追悼式がしめやかに執り行われました。大戦終結から70年の節目の年でございます。皆さま方と共にあらためて、海の平和と海上交通の安全をご一緒に祈念したいと思います。亡くなられました6万3千余柱の御霊の安らからんことを祈念しまして、また、ご遺族の皆さまの末永いご健勝を、いつまでもお元気でお過ごしいただきますように、献杯をいたします。」と献杯のご発声を行った。

式典終了後の懇親会が和やかに行われた

献杯を捧げる

◎式電をいただいた方々（敬称略）

髙木　義明（衆議院議員）
大畠　章宏（衆議院議員）
漆原　良夫（公明党中央幹事会会長　衆議院議員）
武田　廣（神戸大学長）
新田　保次（鳥羽商船高等専門学校）
木村　隆一（弓削商船高等専門学校）
山内　守武（福岡海寿会会長）

参列した皆さまのお話し

■都竹利年雄（つづくとねお）さん（東京都杉並区）

妻、娘と参列しました。式典は今年で数十回目です。わたしは日本郵船で永亨丸（えいきょうまる）に司厨員見習いとして乗船しましたが、昭和19（1944）年10月14日にボルネオで被雷し、ビクトリア港内で座礁しました。この被雷で同乗していた1人が亡くなりました。空爆を受けたことにより12月16日に船体を放棄。空爆時には船体が「く」の字型に曲がったことを覚えています。

乗船前に父から船長に宛てて書かれた手紙は今でも大事に保管しています。

参列した皆さまのお話し

■後藤美津子さん（神奈川県横浜市）

後藤美津子さん（右）、渡部行雄さん、泰子さんの娘夫婦と一緒に、初めての参列

父、岩上米吉は南方にいる第3呉羽丸の機関長として赴任するために、千早丸に便乗したところ、雷撃を受けて沈没、殉職しました。当時、私が9歳、弟が6歳、妹が3歳で、家族4人となり、大変でした。

2年前に新聞で戦没・殉職船員の碑があることを知り、日本殉職船員顕彰会に問い合わせたところ、父がここに奉安されていることを知り、驚きました。本日は、天皇皇后両陛下も来られるということで、有難く思います。

■今田小夜子さん（埼玉県川口市）

今回が初めての参列で、長女・長男と来ました。式典のことは姉の紹介で知りました。父は元々第3呉羽丸という船の機関長をしていましたが、40歳の時に、千早丸に便乗中に雷撃に遭い殉職しました。

父が亡くなった時わたしは3歳だったので記憶はありませんが、式典に参列することで少しでも父に近づければと思います。

父の遺影を手にする、今田さん。（後藤美津子さんとは姉妹）天皇陛下が、遺影に「どなたですか」と尋ねられた

■高井由美子さん（東京都世田谷区）

式典への参列は父の50回忌からでしたので、今回で20回目です。今日は兄と妹2人と4人で来ました。

父は鶴丸汽船の鹿山丸に航海士として乗船中の昭和20（1945）年7月27日に空爆に逢い、亡くなりました。当時わたしは4歳、兄が8歳、妹2人はそれぞれ2歳と2カ月でした。

高井由美子さん（左）姉妹

娘が顕彰会の名簿で父の名前を調べてくれました。それまではどこでどう亡くなったか、全くわからない状態でしたので、見つけた時は涙が止まりませんでした。

今日は「70歳過ぎても兄妹全員が元気でいるよ」と父に伝えたいです。

■楠本顕正（くすもとあきまさ）さん（東京都練馬区）

楠本顕正さんと長女の清原真理さん

長女の清原真理さんと一緒に、初めての参列。

亡くなった父（楠本福一）は、鶴丸汽船所属の八天山丸の船長でした。船が沈んだ当時は私が7歳の時で、その3年後に戦死の連絡が届きましたが、父の骨は帰ってきません。当時は混沌としていましたので、戦死の連絡があるまでは行方不明ということで、どこかの島にたどり着いているのではないかと。父は五島列島の出身で、私たちは空襲を避けるため、佐賀県へ避難し、学生の時分は佐賀県で、その後に東京に出てきました。

この式典を知ったのは、10年ほど前にNHKで戦没船のドキュメント番組が放送されて、その時にこの日本殉職船員顕彰会を知ることができ、八天山丸がいつ、どこで沈んだのか知りたくて、神戸の「戦没した船と海員の資料館」にも足を運びました。

■小林義典さん（兵庫県西宮市）

神戸から来まして、今回が2回目の参列となります。前回は5年前に参列しました。父は「すらばや丸」に乗船していましたが、昭和18年1月に轟沈しまして、当時は「南太平洋で戦死」との連絡がありました。ひょんなことから、神戸に「戦没した船と海員の資料館」があることを知り、詳しく展示されていることに驚きました。私の母が昭和63年に亡くなりまして、父の戦死のことについては南太平洋で戦死ということだけで、詳しいことはわからないままだったので、母に資料館を見せてあげたかったなあと思いました。

小林義典さん

戦没・殉職船員追悼式は関係団体と個人協力者の支援で運営されています

追悼式典の運営には大勢のボランティアによるご支援が欠かせません。第45回追悼式には、海事関係15団体・49人と個人協力者7人に顕彰会スタッフ5人を加えた61人が携わりました。

天皇皇后両陛下の行幸啓を賜り、例年にない対応と緊張のなかで、大きな混乱もなく滞りなく終了できましたことは、これまでの経験と皆さまのご支援、ご協力の賜物と感謝いたします。

今回も実行委員の皆様から、次回につなげるご意見・要望がよせられました。その一部を紹介します。

天皇皇后両陛下をお迎えする実行委員の皆さん

■増田　信さん（全日本船舶職員協会）

今回は特に戦後70年の年に当たり天皇皇后両陛下のご臨席を賜り、天候も良く気温も思いのほか上昇。

ご遺族および参列者は式典の緊張の中で大変だったと思います。我々は受付でテントの下におりましたが、なお皆さんは汗だくで頑張っておられたことは大変良かったと思いました。

式場の準備も大変でしょうが、実行委員はともかく、ご遺族および参列者にあまり負担が掛からないよう（雨天の場合も同様）ご配慮いただければ幸いです。

毎回感じることですが、戦没された先輩たち、不幸にも殉職された方々も慰霊碑の場所・景観を考えると大変すばらしいところで、碑文のとおり、きっと安らかに眠られ、我々と同様に安らかな平安を未来永劫願われていることでしょう。

追悼式の翌朝（6月11日朝刊）、日本経済新聞の社会面に「徴用船、知られざる悲劇」と題して掲載されており、我々元船員も、船舶乗組員の犠牲者が多かったことは聞きかじりで知っておりましたが、当時の若き（20歳以下の方々の）船員が陸海軍兵士よりも異常に高い比率で犠牲になられたことは、実に痛ましいかぎりです。考えてみれば、20歳から30歳くらいの男子はほとんどが陸海軍の兵士にとられ、それ以下の年齢の方々の多くが船員となって犠牲になったかと考えられます。今後も一層、平和を願い、世の中がとこしえに平安であらんことを願っております……。

■大長根輝明さん（全日本海員組合関東地方支部海友会）

当初、両陛下もいらっしゃるとの事で幾分緊張しておりました。当日は警備の方は見かけましたが式典は平穏に経過し、無事終了出来ました事を嬉しく思います。

また、今回は実行委員を務めさせて頂き、両陛下のお姿を間近にお目にする機会を与えていただき感謝しております。

ご高齢になられた両陛下が暑い中、戦没・殉職船員追悼式にご出席頂いた事に深く感動しております。いつもはテレビの画面越しにお姿をお見受けするだけでしたが、間近にお姿をお目にすると、その穏やかな物腰やお顔つきからお言葉を交わさずともお人柄の良さが滲み出ており、両陛下の穏やかな雰囲気を人々は愛しているのだと感じられた貴重な一日でした。

今後も参加したいと考えていますが、次回の戦没・殉職船員追悼式の時期は乗船中になりそうです。その場合は船上から追悼させていただきます。

■石井美枝さん（横須賀海洋少年団）

平和な世に生まれ育ってきた私にとって、この追悼式の場は戦争による悲しみを肌で感じられる貴重な場となっています。今年は戦後70年。

天皇皇后両陛下ご臨席を賜る今回の式にお手伝いをさせていただき大変光栄に思っています。

受付に集中する参列の皆さん

▼横須賀海洋少年団（15人）▼東京海洋大学海事普及会（10人）▼全日本海員組合本部（5人）▼全日本海員組合関東地方支部「海友会」（2人）・「木洋会」（3人）▼日本船主協会（2人）▼大日本水産会（2人）▼日本内航海運組合総連合会（2人）▼全日本船舶職員協会▼日本船舶機関士協会▼日本船長協会▼日本海事広報協会▼日本水先人会連合会▼海技振興センター▼海洋会▼日本海事新聞社、以上各1人▼個人協力者（7人）に顕彰会（5人）が加わり、今回は61人で実行委員会を構成しました。（順不同）

早朝から、観音崎京急ホテルで打合せを行う実行委員の皆さん

■藤田信輔さん（東京海洋大学）

今回初めて戦没殉職船員追悼式に協力させていただきました。平成生まれの私たちにとって太平洋戦争というものはすごく距離を感じるものですが、自分がいま学んでいる大学のOBの方々や自分と同じくらいの年齢の方が数多く亡くなられたということを踏まえると、とても近いものように思えてきました。私の身の回りでも戦争中に船乗りが危険を冒して輸送を行っていたと知る人は少ないですが、追悼式の様子が報道される中で、少しでも多くの人が、戦没・殉職船員に関心をもってもらえればいいなと思いました。今回東京海洋大学海事普及会の1年生としては唯一の参加であったので、来年以降も携わらせていただき、受け継いでゆきたいと思います。

■武善　優さん（東京海洋大学）

終戦から70年目となる今年の戦没殉職船員追悼式には天皇皇后両陛下をお迎えし、未来への誓いを新たにしました。まずはそのような機会に参加できたことを、大変光栄に思います。

太平洋戦争では、私の大先輩にあたる商船学校出身の船員を含め、数多くの船員の命が失われました。当時の遺品、記録等を目にし、生存者と遺族の方の声を聞くたび、心が痛みます。太平洋戦争が終結した後も、わが国の商船隊は、国際情勢の変化により危険な海へ行くことがありました。戦中、そして戦後の船員の献身と活躍には、ただただ頭が下がる思いです。

私は今年初めて追悼式に参加させて頂きましたが、追悼式は昭和46年より続けられており、その努力には心から敬服致します。亡くなられた船員を弔い、戦争の記憶を後世に伝えることは、たいへん意義のあることと思います。

今回は初回ということもあり、不慣れなため何かとご迷惑をおかけしましたが、実行委員会の皆様よりご丁寧なご指導をいただき、無事に係の仕事を終えることができました。心より感謝申し上げます。

わが国は資源の乏しい国家であり、交易によって現在の発展を遂げました。船なくして、船員なくして日本は存在し得ません。今後もそれは変わらないでしょう。船員の犠牲を悼み、平和を望む心が、いつの日か海洋の恒久平和を実現することを願ってやみません。

参列者がお帰りの時、白菊を手渡す東京海洋大学生と横須賀海洋少年団の皆さん

■丸山祐司さん（全日本海員組合関東地方支部海友会）

戦後70年の節目に際し、戦没・殉職船員追悼式に実行委員としてお手伝いをさせて頂きながら、現場で海上輸送を業とする私たち船員にとって平和な海が如何に大切なものかを改めて感じました。そして、戦没・殉職船員の思いや追悼式に参列されたご遺族、関係者のご苦労に思いをはせ、晴天の観音崎公園の丘から見えた広く明るい海が洋々とこの先も続くことを祈りました。この追悼式が私達船員にとって平和の礎を築いた先人たちに感謝し、そして、次世代へ平和な海を引き継ぐマイル・ストーンとして続いていくことを願ってやみません。

「戦没船員の碑」の広場

皆様のご厚情に感謝申し上げます

平成26年11月21日以降、平成27年7月15日までの間に、次の方々に新たに賛助会員・協賛会員として加入いただきました。

また、次の皆様からご寄付をいただきました。厚く御礼申し上げます。

本会の事業運営は、基本財産の運用益のほか、会員からの会費や寄付金、海運・水産・旅客船などの会社および海事関係団体からの会費や補助金などで、戦没・殉職船員の慰霊・顕彰とご遺族への援護事業を支えています。

会員制度には、賛助会員と協賛会員があります。

■賛助会員には、「法人」と「個人」があり、次の年会費をお願いしています。◎法人賛助会費＝1口10万円、◎個人賛助会費＝1口1万円。毎年4月に会費の納入をお願いしています

■協賛会員は「個人」にお願いしているもので、加入された翌年からは、毎年4月に、次の年会費の納入をお願いしています。◎協賛会費＝1口3千円。

新たな賛助会員の皆様（順不同）

○井関能雄様（町田市）○植村保雄様（東京都豊島区）○福原聡様（座間市）○高榎堯様（東京都杉並区）

新たな協賛会員の皆様（順不同）

○西本久美子様（越谷市）○小室京子様（宇都宮市）○川満功様（糸満市）○今田小夜子様（川口市）○後藤美津子様（横浜市）○橋本則子様（三浦市）

追悼式献花料（順不同）

○大圖富美子様（水戸市）○高垣宏江様（神戸市）○中村順子様（船橋市）○西川克巳様（神戸市）○藤井靖子様（府中市）○古川昭様（日立市）○小泉義男様（日立市）○新田尚子様（宇部市）○三木千代子様（丸亀市）○升田紀子様（横浜市）○髙野さよ子様（静岡市）○静友己枝様（東京都江東区）○山岸信一様（前橋市）○嶋田早苗様（八幡市）○中野昭男様（名古屋市）○桜井正様（千葉市）○福士武光様（札幌市）○道家康之助様（吹田市）○小野恵美様（東京都港区）○和野隆悦様（仙台市）○末富昭子様（小野田市）○小野寺麗子様（気仙沼市）○小澤恒雄様（松江市）○全日本海員生活協同組合様（横浜市）○鴨居地区連合町内会様（横須賀市）○鴨居三軒谷町内会様（横須賀市）○浪速タンカー株式会社様（東京都港区）○一般財団法人全日本海員福祉センター様（東京都港区）○宮越和子様（佐倉市）○大澤眞治様（東京都港区）○宮越健郎様○宮越貴子様○宮越康郎様○才津玲子様（横浜市）○日本内航海運組合総連合会様（東京都千代田区）○一般財団法人船員保険会様（東京都渋谷区）○全国海友婦人会様（東京都目黒区）○松本三七一様（姫路市）○豊丸漁業有限会社様（横須賀市）○住吉漁業株式会社様（三浦市）○一般財団法人船員保険会中澤政光様（東京都渋谷区）○全国海運組合連合会様（東京都千代田区）○一般財団法人日本船員厚生協会様（川崎市）○公益財団法人日本海事センター様（東京都千代田区）○船主団体内航労務協会様（東京都千代田区）○公益財団法人水交会様（東京都渋谷区）○公益財団法人偕行社様（東京都千代田区）○船員災害防止協会様（東京都千代田区）○一般社団法人外航船員医療事業団様（東京都千代田区）○海翔会様（東京都港区）○三輪史郎様（富里市）○三宅弘様（逗子市）○横浜海員会館様（横浜市）○才津俊朗様（横浜市）○五十嵐温彦様（大和市）○全国海員学校同窓会様（新座市）○本村泰清様（逗子市）○鳥羽商船同窓会事務局様（伊勢市）○貝谷アキ子様（一宮市）

寄付金（順不同）

○青葉千春様（伊那市）○鷹野誠様（福岡市）○鮎川昭一様（鹿児島市）○北村達之様（佐賀市）○高榎堯様（東京都杉並区）○宮越和子様（佐倉市）○小野寺功一様（気仙沼市）○有限会社ベイライン様（焼津市）

戦時徴用船の最期

大久保一郎遺作展寄付金

○菅原平様（さいたま市）

終戦記念日献花式供花料

○米山隆昭様（東京都北区）

遺族援護寄付金

○海事思想普及研究会様（神戸市）

能楽「海霊」奉納

第45回追悼式場で能楽「海霊」を、晴天のもとに奉納した。

能楽「海霊」は、戦没船員と生死を共にされた、宮越賢治船長が御霊の鎮魂と功績を後世に継承するために作詞され、自らシテ（主役）となって昭和46年5月6日の第1回追悼式で奉納されました。

宮越船長は、昭和61年に亡くなられましたが、以来今日まで観世一門により、途絶えることなく継承され、奉納が続けられています。

遺児たちを守る支援制度

殉職船員遺族援護　遺児へ援護金を支給

昭和58年に外航船13人・内航船7人でスタートした殉職船員遺族援護事業は、平成2年の外航船59人・内航船63人・旅客船13人・その他9人をピークに漸減をたどり、平成26年度の対象遺児は3人となっています。

海難や労災事故はあってはならないことですが、殉職船員遺児援護制度を知らないために苦境におかれていては大変です。個人情報保護の関係から事故情報が取りにくい社会情勢にあります。

船社や業界団体の積極的な協力をお願いいたします。

返還義務のない制度

当会の殉職船員遺族援護事業は、商船などに乗船中、海難や労災事故で殉職した船員の遺児に援護金を給付する制度で、返還の義務はありません。

支給額は1人月額8千円のほか、入学記念品代として小学校入学時に3万円、中学校入学時と高校入学時には、それぞれ1万円を給付します。支給期間は、遺児が義務教育および高等学校を終了するまで。詳しくは、当会事務局へお問い合わせください。

なお、漁船乗組員の遺児の方は、漁船海難遺児育英会が援護事業を行っていますので、お問い合わせください

ご遺族からのお便り

本紙夏号では、殉職船員ご遺族の方々からのお便りを紹介しています。現在、遺児援護金の給付対象遺児は、中学生2人、高校生1人。合計3人。保護者からのお便りを紹介します。

■大竹初美さん（三重県）

いつもご支援ありがとうございます。

7月に入りましたが、雨が多くてうっとうしい日々が続いています。

一学期も終わりに近くなり、テストも無事終了し、日々に少し余裕が出てきました。

次女は、テニス部3年生、最後の大会に向け練習に励んでいます。

長女は7月末からテストです。

■阿部悦子さん（宮城県）

日々ありがとうございます。

夏休みに近付いてきて、そろそろ本格的な進路相談などがあります。

最後の夏休みを充実してもらいたいです。

終戦記念日献花式

終戦記念日（8月15日）に神奈川県立観音崎公園「戦没船員の碑」（横須賀市）で献花式を行います。ご案内するのは、当会役員など約60人ですが、どなたでも参列することができます。参列される場合は、バス等の関係から顕彰会に必ずご連絡ください。

▽午前11時20分観音崎京急ホテル集合▽同30分マイクロバスで戦没船員の碑へ▽同50分慰霊碑の献花台前に整列▽「全国戦没者追悼式」のラジオ実況放送に合わせて総理大臣式辞▽12時黙とう、戦没船員の御霊を追悼し、海洋永遠の平和を誓います。▽同02分天皇陛下のお言葉を聞き、閉式。マイクロバスで観音崎京急ホテルへ戻って昼食・解散となります。

服装は、白ワイシャツに黒ネクタイの軽装でお願いします。

例年、役職員のほか、海事関係者や当会役員経験者など40人余が参列し哀悼の誠を捧げます。

お知らせ

公益財団法人日本殉職船員顕彰会
電話　03・3234・0662

戦没船員功績等調査事業

戦没船員ご遺族や軍人ご遺族のほか、海事関係者や報道、研究者、一般の皆様から、電話やメール等で調査依頼が寄せられます。

第45回戦没・殉職船員追悼式は、天皇皇后両陛下のご臨席を賜り執り行いました。終戦70年であり、各報道機関が大々的に報道しました。結果、戦没船員遺族から、「戦没・殉職船員追悼式を、ニュースで知った。父は戦没船員の碑に奉安されているか」との問い合わせも、多く寄せられています。

調査依頼の一部をご紹介します。

■**男性（戦没船員遺族）**

追悼式のことを、NHKニュースで知りインターネットで調べ電話した。戦没した父は「戦没船員の碑」に奉安されているかどうか。また、父が乗船していたY汽船Y丸の情報が知りたい。

【回答】

お父上は、弊会の戦没船員名簿に登録され、観音崎の「戦没船員の碑」に奉安されています。また、Y丸は朝鮮西部蝟島付近で米潜水艦の魚雷攻撃により沈没されています。

次年から追悼式のご案内をいたしますので、ご参列ください。

【お礼のお手紙】

先般、NHKテレビで「戦没・殉職船員追悼式」のニュースを見ました。これまで御会の存在を存じませんでしたので父の死亡に関する、情報は殆んど知らない状況でありました。

勿論、母(96歳)から、生前の話や、死亡についてはうすうすながら聞いておりました。（当時4歳でした）

戦後、70年となり、終戦時の状況等をマスコミで日々見聞きする機会に接しております。

この機会に、父の最期に関して具体的に知ることが出来ればと思い、御会に問い合わせたところ、早々に、ご丁寧な連絡を頂きまして、誠にありがとうございました。

なお、甚だ些少ですが寄付金を納めさせて頂きたいと思っております。

■**男性（戦没船員遺族）**

追悼式をニュースで知った。伯父は乗船中に亡くなっているが、「戦没船員の碑」に奉安されているかどうか。また、資料を送ってほしい。

（電話）

【回答】

伯父さまが乗船していたT丸は、終戦後の8月21日関門西口付近で触雷し乗組員11人が戦没され、「戦没船員の碑」に奉安されています。

■**女性（戦没船員遺族）**

6月10日の夕刊で追悼式を知った。新聞社に問い合わせたところ、顕彰会を紹介された。

父が九十九里沖で亡くなっているが、観音崎に奉安されているのではと思い連絡した。奉安されていればお参りしたい。

また、船名などの情報もあわせて知りたい。

（電話）

【回答】

お父上は、「戦没船員の碑」に奉安されています。船長として乗船していたT丸（海軍徴用船、199トン）は、茨城県平潟沖で触雷し乗組員5人が戦没されています。T丸について調べましたが詳細は不明です。

■**女性（戦没船員遺族）**

追悼式をニュースで知った。兄が乗船中に戦没している。「戦没船員の碑」に奉安されているかどうか。奉安されていればお参りしたい。

（電話）

【回答】

お兄様は、「戦没船員の碑」に奉安されています。お兄様が乗船されていたY汽船第3Y丸は、門司から鹿児島、釜山経由でマニラ向け航行中に、台湾沖で魚雷攻撃により、本船に搭載中の爆薬・火薬が誘発し大爆発をおこして轟沈し乗組員全員70人が戦没されています。

殉職船員3名　新たに奉安

商船や漁船などに乗船中、海難や職務上の事故などで殉職された船員の調査は毎年行われ、ご遺族の了解が得られた方のご芳名と没年月日を浄書した名簿を「戦没船員の碑」に奉安いたします。

全国にはまだ奉安されていない多くの方々がいるものと考えますが、個人情報保護の下で情報の入手が困難な事に加え、ご遺族の了解が得られないケースも少なくありません。また、船主あてに送付した奉安調査表が、船主の協力が得られず、遺族まで届かないことも多くみられます。奉安することにより、費用が発生することはありません。

また、遺児（漁船を除く）に援護金を支給する制度があります。

本年5月21日、追悼式を前に、次の殉職船員3名の方々の名簿を浄書し戦没船員の碑に奉安いたしました。

6月10日に執り行われた第45回戦没・殉職船員追悼式で全国から参列した方々から、鎮魂の祈りが捧げられました。

小柳　武久　様（共同船舶㈱）
水野　眞樹　様（パールライン㈱）
柳町　武士　様（パールライン㈱）

戦没殉職船員慰霊・顕彰

～ 終戦から70年 ～

先の大戦が終結してから70年。

あの戦争は、海上輸送なくしては全く考えられなかった世界戦史に例がない「大海洋作戦」であった。そのために、商船はもとより漁船・木造機帆船など船と名のつくものは、その大半が徴用などによって戦争に参加した。

わが国船舶は、海上輸送路の破壊に血眼になっていた米軍（連合国軍）の熾烈な攻撃の中で兵站の輸送や監視等に従事し、終戦とともにわが国海運・水産界は壊滅状態に陥った。

この大戦で、７千隻を超える船舶を喪失し、６万余人の船員が尊い犠牲となった。特に船員の犠牲で痛ましいことは、戦没船員の約３割、２万人のいたいけな20歳未満の年少船員が多いことである。

戦後失意の中にあって報われることなく海底に眠る船員の霊を慰め、本来平和産業の士である船員が、二度と戦火の海を航くことのないようにと祈りを籠めて、記念碑を建立する運動が有志の間でいち早く進められたが、占領下の特殊事情はこれを許さず、20年余がむなしく経過し、この間にも目ざましい復興発展を続けた海運・水産界にあっては、戦没船員の慰霊と海洋永遠の平和を希求する人々の願望が強い昂りをもってひろがり、昭和46年３月「戦没船員の碑」を観音崎に建立した。

昭和46年５月６日、皇太子同妃殿下（現天皇皇后両陛下）のご臨席を仰ぎ、降りしきる雨の中、第１回追悼式を挙行してから、毎年追悼式を執り行ってきたが、年月の経過とともに、海難で亡くなった船員の追悼にも配慮してほしいとの要望が高まり、戦没、海難を問わず、殉職されたすべての船員の慰霊顕彰と、そのご遺族の援護にあたるために、昭和56年４月、日本殉職船員顕彰会を設立した。

「戦没船員の碑」の存在と意義が、広く全国に知れわたり、戦没・殉職船員追悼式が国民的行事として定着し、国民の海洋精神を高揚し、平和の海があってこその海洋立国の認識を深めることを念願している。

皇室と戦没・殉職船員

戦没・殉職船員追悼式は、45回を数えるが、この間、昭和天皇皇后両陛下、今上天皇皇后両陛下（現両陛下）、皇太子殿下、高松宮殿下に「戦没船員の碑」へのご拝礼を賜りましたことは、皇室の海運・水産とそこに働く船員、とりわけ戦没船員によせられる御心の篤さです。

天皇陛下御製

戦日に逝きし舟人を
悼む碑の彼方に見ゆる
海平らけし

皇后陛下御歌

かく濡れて遺族らと祈る
更にさらにひたぬれて
君ら逝き給ひしか

天皇陛下おことば

第30回戦没・殉職船員追悼式（平成12年５月15日）

本日第30回戦没殉職船員追悼式に臨み、さきの戦争の戦没船員を始め、船員としての職務に殉じた人々の上を思い、深い感慨を覚えます。

昭和12年から８年間にわたった戦争の間に、祖国のために海上輸送などの業務に従事しながら、戦火により尊い命を失った我が国船員は、６万人余に上ります。これらの人々の御霊を慰めるために、関係者の努力によってこの戦没船員の碑が建てられ、今日では、戦後、海上で職務の遂行中殉職した千７百人を超える船員の御霊も併せ祀られています。

第１回戦没船員追悼式が行われたのは昭和46年、降りしきる雨の中でした。その後私どもは二度ここを訪れていますが、ここに祀られた船員が、碑の前に広がる果てしない海に抱いたであろうあこがれと、その海が不幸にもその人々が痛ましい最後を遂げた場所となったことを思う時、かけがえのない肉親を失った遺族や亡くなった船員と共に航海をした同僚の人々が抱き続けてきた深い悲しみが察せられます。

戦後50年余を経て、当時の戦争のことが人々の心から次第に遠いものとなっていく今日、私どもは我が国の人々が戦後に築き上げた平和と繁栄が戦没船員を始めとする数しれない人々の尊い犠牲の上に達成されたものであることを決して忘れてはならないと思います。

第二次世界大戦後、局地的戦争はありましたが、多くの海域に平和が戻り、戦後の我が国が発展する上で海運や水産に携わる船員の果たした役割は誠に大きなものがありました。これからもこの海の平和を守るために皆で努めていくことが大切であり、それが亡くなられた人々に報い、遺族の意にそう道でもあると思います。

ここに御霊の安らかならんことを祈り、併せて遺族の幸せを願って追悼式に寄せる言葉といたします。

戦争を体験した船員の体験談をお聞きし、次世代へ伝えます。戦争体験船員をご紹介ください。

会長が交代しました

宮原さんから芦田さんへ

芦田昭充新会長

宮原耕治前会長

本会は平成23年4月1日、公益財団法人に移行して、4年余を経過しました。

平成27年6月24日の第11回評議員会で、評議員、役員（理事・監事）の任期満了により、評議員、役員の改選が審議のうえ決議されました。同日、改選された理事15人（新任4人、再任11人）、再任の監事2人により、第14回臨時理事会を開催し、代表理事・会長、副会長、業務執行理事を選任しました。

退任された前代表理事・会長の宮原耕治さん（日本郵船）の後任に、芦田昭充さん（商船三井）が代表理事・会長に選任されました。

退任された理事は、宮原耕治さん（日本郵船）、上野孝さん（日本内航海運組合総連合会）、豊田耕治さん（海洋会）、平井奉行さん（日本機関士協会）。

新たに就任した理事は、工藤泰三さん（日本船主協会会長）、小比加恒久さん（日本内航海運組合総連合会会長）、井手祐之さん（日本機関士協会会長）、山本勝さん（海洋会会長）の4人の方々です。

評議員は、大口清一さんから谷山將さん（日本海員掖済会常務理事）、甲斐定彦さんから岡本建之介さん（海洋会専務理事）に交代され、13人の評議員の方々は再任されました。

大久保一郎画伯（1889―1976）

大阪商船「ありぞな丸」宣伝用絵葉書の原画を前に。1956年　67歳

入場無料

戦時徴用船遭難の記録画　横浜で開催

戦時徴用船の最期　大久保一郎遺作展

8/18～8/23

神奈川県民ホール　ギャラリー
第2展示室、第3展示室

第41回

「戦時徴用船の最期」大久保一郎遺作展

▽会期
8月18日㈫から8月23日㈰まで
・開館時間は、9時00分から18時00分まで
・初日の8月18日㈫は、13時00分開場。
・最終日の8月23日㈰は、16時00分に終了。

▽会場
神奈川県民ホール　ギャラリー
第2・第3展示室
横浜市中区山下町3-1

▽主催
公益財団法人
日本殉職船員顕彰会
03-3234-0662

大阪商船（現・商船三井）の嘱託画家だった大久保一郎画伯は、戦況が悪化した昭和17年、当時の岡田永太郎社長から「次々に沈められる社船の最期を記録にとどめるように」言われました。

公開される遺作37点は、先の大戦で、海の藻屑となった戦時徴用船の壮絶な最期と乗組員の悲惨な実相を伝える貴重な資料です。

入場無料。

ガダルカナル島にて空爆を受け炎上する「九州丸」